

札幌医科大学のFDポリシー

(令和2年3月31日 札幌医科大学FD委員会)

Faculty Development (FD) とは、大学教員の資質および教育能力の向上を図り、学生の教育・学習効果を最大限に高めることを目指す組織的な取り組みの総称である。

札幌医科大学のFD活動においては、本学の建学の精神、及び、ディプロマ・ポリシーの達成を念頭に、以下のポリシーに基づき、高等教育機関としての質保証に取り組む。

FDポリシー：

1. 教育組織（学部、大学院）としての向上を目指し、講義・演習・実習等に関わるすべての教員（本学教員、非常勤教員、及び、その他本学の教育に関わる者、また必要に応じて事務職員を含む）の教育能力の開発を重視し活動する。教員個人としての教育能力や資質向上を目指すと同時に、組織全体を支援することを考慮する。
2. 医療専門職を養成する教育・研究機関として、人材育成、研究活動、社会貢献にかかわる資質や能力の開発を支援する。

FD活動内容：

上記のFDポリシーに則り、FD委員会では以下のとおりFD研修プログラムの企画・運営に取り組む。

1. 教育能力の向上に必要なテーマを選定し、FD研修の内容、形式（講演会、ワークショップ）を決め、必要に応じて相応しい外部講師を招請する。大学全体を視野に入れた学部共通のFD研修と、各部局（医学部・保健医療学部・医療人育成センター）に特化したFD研修を企画し、実施する。
2. 教員のキャリアパスを重視した研修プログラムを考慮する。特に、新任教員に対しては、医学・医療教育者としての基本、すなわち高等教育機関である本学で、医学・医療の教育に携わる教員として身に付けておくべき内容を主とした講演を受講する場を提供する。
3. 大学教育を支える教員・職員の能力開発に関する調査研究を必要に応じて行い、その結果に基づいて研修プログラムの企画、実施を行う。
4. 個人の業績評価に連動することを前提にした研修プログラムを企画、実施する。
5. 人材育成、研究活動、社会貢献に関する能力の向上に必要なテーマの研修プログラムを主催・共催する。